

# 子供会シリーズ

(11)

## 中学生はリーダーに



昨年六月に一泊二日で子どもクラブジュニアリーダー研修会を行いました。その時参加した小学生・中学生の感想文の一部を抜粋して

見ました。

小学生の感想 「みんなでワイワイやっているうちに二日間はずっとより早く過ぎました。とっても楽しい二日間でした。できたら来年も参加したいと思いました。」

中学生の感想 「グリーンロッジには他の地区よりきた人たちがいっぱいいました。なんだかつまらなそうと始めに思いました。だっておもしろくもない遊びばかりやっているんだもの。はやく帰りたいな、そればかり考えていました。その上班長にまでなっていましたま

した。」(以上原文のまま)この中学生は最後までつまらなかったといっています。

この二つの作文は道徳的でなくて思ったことを素直に書いていると思います。それにしても何と見方、考え方の違いでしょう。小学生の時代はワイワイさわいでいることが楽しいのです。「○○をした」ということより集団で遊ぶことの楽しさを表わしています。中学生になると内省的で批判的で集団の中に入っても自分の心に何かびたりしないものを感じている

ことがわかります。

このような中学生を無理に始めから入れようとしても入らないし、入っても心に響かないので、していることが幼稚に見えるので魅力を感じないのです。

そこで子ども会は小学生を中心にして集団をつくるのがよいといわれています。そして中学生の中には小さい子の面倒をみるのが好きな子がいますから、そういう中学生にリーダーになってもらうのです。又ボール遊びを好きな中学生、プラモデル作りの好きな中

学生、切手を集めている中学生というように、特技や趣味を持ってもらうのです。そして必要な時にでもらって一緒に遊んでもらうのです。

中学生がリーダーになることはよいことです。それは大人より子どもの事がよくわかるからです。中学生がリーダーになって活動することによって子ども会に魅力を感じるようになります。

## 今月のガーデナー

### 七月の花「ヤブカンゾウ」



花が咲けば、八重の花であればヤブカンゾウ、一重の花であればノカンゾウとすぐ分ります。しか

し花の咲くまでは、なかなか区別はできません。ヤブカンゾウは林の中、ノカンゾウは野原に、とは必ずしもいきません。

ヤブカンゾウの別名をワスレグサと言います。中国の伝説に、この花をみると憂いを忘れるという話があり、このことからこの名があります。

朝咲いて夕方までにしぼむ花ですが、朝、川原などにこの花が陽の光を浴びているのを見ると、ああ夏が来たなという感じがします。尾瀬や霧ヶ峰などで有名なニッコウキスゲなども、この仲間(同じ属)です。

都留文科大教授

森江 晃三

### 小山田出羽守信有(上)

天文一〇年(一五五〇年)越中(以下略)が亡くなると、父の名をそのまま踏襲して、出羽守信有と称し、郡内領主を継ぎました。

この年、信虎は晴信によって駿河に追放されるという政変があったのですが、国人ことごとく晴信を擁立したため内乱をまぬがれ、晴信の政権は不動のものとなったのです。信虎の妹を母とする出羽守信有としては大変な危機に遭遇したのですが、晴信側につく道を選んでことなきを得たのでした。

出羽守信有の十一年間は晴信の信濃攻略の前半期で、新田次郎の「武田信玄風の巻」にもしばしば登場をみるとおり、戦いにあけ戦

## 小山田シリーズ

### 小山田出羽守信有

いに暮れた生涯でした。

戦歴では天文一四年信州伊奈の福与城開城の軍使として登場するのははじめ、一五年の志賀城攻め、一六年の上田原の戦い、塩尻

峠の戦い、田の口城攻略、一九年の戸石城の戦いへの参加が記録されています。これは甲陽軍鑑や妙法寺記に出てくる記録ですが、大部隊の郡内勢ですから、おそらく信有自身は出陣しなくとも、援軍を送るというような形で様々な戦いに郡内勢は参加したものとみてよいでしょう。

晴信の残忍性を示す戦いのひとつとして、敵の援軍として送られてきた常州の兵三千の首を刎ね、杭に刺して城の囲りにさらしたことで有名な志賀城攻めの折には、

志賀城主夫人を恩賞として給わり、駒橋へ住まわせ、側室とした記録があり、麦打歌にも「岩殿山で三味線ひくは殿、語るは殿のおめかけか」と歌い継がれてきました。

最もはなばなしの戦いをしたのは上田原の戦いです。村上義清と対戦、武田本陣が村上軍に衝かれ、あわやというとき、先方衆大将の信有が村上軍本陣を衝いたため、村上軍が引き返したという、いくさです。

この時、板垣、甘利の大将を失い、晴信自身も負傷するという、武田軍としては数少ない敗けいさのうちひとつですが、その中に出て出羽守信有は晴信の危機を救ったという大功をあげたのでした。